

編集 後記

本号は、原著2編、研究ノート2編および第71回総会演題集が掲載されています。本学会総会には例年多くの自治体職員が参加されるので、本号に目を通される学会員も多いかと思いますが、本号掲載の論文も、いずれも公衆衛生の課題に直結した内容であり、市町村や保健所の業務に役立つ知見を含んでいます。

原著は、妊娠中の喫煙が、出生児の肥満を非喫煙の母からの出生児よりも、5歳程度まで増加させ、その後安定するといった報告、認知症の行動/心理症状は通所施設より自宅で顕在化しやすく、家族の負担も大きいなどの報告です。また、研究ノートの一つは、成人知的障害者に肥満が多く、穀類、菓子摂取が多く身体活動レベルが低い事を示し、介入策についても考察しています。7月に厚生労働大臣告示された健康日本21（第2次）では、健康格差（地域や社会経済状況による集団間の健康状態の差）にも注目し、ゆとりある生活が困難な者や健康づくりに関心のない者も含めて、健康を支え、守るための社会環境の整備を目指しています。上述の3編は、自らの努力では健康課題の解決が困難な人々を取り上げていますが、私を含め自治体で公衆衛生を担う皆様は、課題の解決にどのような環境整備が効果的なのかを、広く住民や関係者に知らせることが期待されていると思います。研究ノートのもう一編は、正に保健所と言う自治体の持つ機構が、業務の実態を反映し住民からも分かりやすいものになる方策を検討しています。健康に関わるリスクコミュニケーションは今後ますます重要となり、その機能と合わせて公衆衛生を担う機関の名称の重要性

次号予告（第59巻・第9号）

原著

わが国における自傷行為の実態
2010年度全国調査データの解析

……………阿江竜介，他
地域在住高齢者の日中の眠気……………岡村 毅，他

公衆衛生活動報告

国内初発患者に対応した神戸市の2009年新型インフルエンザ（H1N1）対策における相談および医療体制の課題
神戸市と茨城県の比較から……………白井千香，他

研究ノート

生鮮魚介類による原因不明の食中毒についての検討（2009年）……………吉岡明彦，他
食事摂取量推定のための料理単位法の開発地域とは異なる集団への適用可能性

……………鬼頭久美子，他

連載

ヘルスサービスリサーチ(25)……………池田俊也

についても改めて考えさせられます。

自治体やサービス提供の現場では事業の実施が優先され、自らその介入策の科学的な有効性を検証する機会は少ないかと思えます。本誌はわが国を代表する公衆衛生分野の学術誌ですので、掲載論文はもちろんですが、その引用文献を、関連する研究成果を知る手がかりともして頂きます。学会員の皆様が本誌を、効果的な施策の立案や実施にも役立てて頂くことを期待しております。

（中瀬克己）

「社会階層と健康」定例研究交流会シンポジウム

現代社会の階層化と健康格差のメカニズム理解と、社会格差の制御方策の立案という社会的に重要な課題の解決に学際的に貢献するために以下のように定例研究交流会シンポジウムを開催しています。参加費無料・参加登録不要です。医学，社会学，経済学，教育学，心理学などさまざまな領域の研究者，学生の皆様のご参加をお待ちしております。

平成24年度日程

平成24年度日程	テーマ
2012年8月9日（木）	労働と健康・非正規雇用
9月15日（土）	医療アクセスの社会格差
10月13日（土）	脳科学と健康社会格差
11月17日（土）	地域パネル J-SHINE 調査から
12月8日（土）	労働者コホート J-HOPE 調査から
2013年1月26日（土）	健康の社会格差の共通理論枠組み

各回13～17時（予定）。会場（東京大学構内），プログラムの詳細は以下をご覧ください。

<http://mental.m.u-tokyo.ac.jp/sdh/archives/teireisym.html>

主催：平成21～25年度 文部科学省科学研究費新学術領域研究（研究領域提案型）

「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」

お問い合わせ：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野内

新領域「社会階層と健康」総括班事務局

TEL：03-5841-3364 FAX：03-5841-3392 Email:sdh-sec@m.u-tokyo.ac.jp

領域 HP：http://mental.m.u-tokyo.ac.jp/sdh